令和6年度フェロー認定（11名）	
氏名	秋元 孝之
認定時の所属	芝浦工業大学
抱負	建築環境工学に係る専門的知識や国内外のネットワークを活用し、地球温暖化防止に関する課題を中心に、これらのテーマに関連する委員会での審議や、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させる日本工学会の様々な活動に参画して参ります。 我が国及び世界の工学全体に関する活動や交流事業の展開に尽力したいと思います。
氏名	伊藤 慎一郎
認定時の所属	工学院大学
抱負	日本工学会に入会するにあたり、私は以下の三つの抱負を持っています。 1.知識と経験の共有: 私は工学の分野における知識と経験を積極的に共有し、他のメンバーとの相互学習の機会を創出します。最新の技術動向、研究結果、または実務上の知見を共有することで、会員同士の専門性を高め、より実践的な解決策を生み出す土壌を育てたいと考えています。 2.技術革新への貢献: 日本工学会の一員として、私は技術革新に積極的に貢献し、持続可能な社会の発展に寄与します。これには、環境に優しい技術の開発、省エネルギーシステムの実装、または最先端技術の研究に取り組むことが含まれます。新しいアイデアを生み出し、それを実現するための技術的な挑戦にも積極的に取り組みます。 3 国際的なネットワークの構築: 国内だけでなく国際的な視点を持って活動することで、世界各国の工学者との連携を強化します。国際的なプロジェクトや共同研究に参加することで、技術交流を促進し、文化的多様性を尊重した国際協力の構築に努めます。以上の抱負を持って、日本工学会における活動を通じて、私自身の専門性を高めるとともに、社会全体の技術発展に貢献できるよう努力します。会の理念と目標に沿った活動を通じて、工学分野における知識の進歩と技術革新に貢献したいと考えています。
氏名	上田 修功
認定時の所属	理化学研究所
抱負	近年、公共の場において、互いを認め合い、個性を尊重することを目指すダイバーシティが進みつつあります。ダイバーシティが進むだけでは不十分で、自由に意見を交わす環境を作ること（インクルージョン）が大切です。日本工学会も工学の多方面の分野をカバーしている点でダイバーシティを満たしていると言えますが、分野間の連携がインクルージョンの観点で重要と思います。手前みそですが、私は機械学習（AI）の研究者で、近年では、AI技術があらゆるところで多用されることがあるため、機械学習分野だけでなく、多方面の分野の研究者との交流があります。本学会においても、その経験を活かし、ダイバーシティとインクリュージョンのさらなる深化のために微力ながら貢献したいと考えています。
氏名	岡村 未対
認定時の所属	愛媛大学
抱負	学協会が協働して取り組むべき課題が山積する現代において、多くの学会の連合体である日本工学会が果たすべき役割は、ますます大きくなっています。工学界をとりまとめる日本工学会の活動に、微力ながら貢献してゆきたいと思います。
氏名	風間 基樹
認定時の所属	東北大学
抱負	これまで港湾や空港施設の耐震設計に関する研究を皮切りに、様々な社会インフラ施設の耐震性に関わる研究を行い、また、1995年阪神・淡路大震災や2011年東日本大震災の復旧復興事業に技術面からサポートしてきました。地震防災・減災に関わる課題以外に，現代社会が抱える日本の社会課題解決には多くの分野の協働作業が不可欠であり，オール日本的な取組が必要であると感じています。分野間の連携が大きなシナジー効果をもたらすような支援活動をしたいと思います。

氏名	勝野 哲
認定時の所属	中部電力株式会社
抱負	私は、昨年５月まで電気学会の会長をさせていただいておりましたが、その間各地で開かれた大会等に参加させていただきました。そこでは、志を持った若い学生から多様な経験を積まれた研究者・技術者までが一堂に会して活発に議論されているのを目の当たりにし、これからの学術界（アカデミア）に対して大変頼もしく感じた次第です。 一方、日本工学会の会長懇談会の場では、私が専門としている電気分野のみならず、機械や化学、情報通信など工学系のあらゆる分野において「いかにアカデミアで生み出された新しい技術やイノベーションの種を社会実装に繋げていくか」という点が共通課題であることを認識した次第です。 今回、大変光栄にも日本工学会のフェローとして認定いただけた暁には、上記を踏まえ、アカデミアの成果を社会実装・経済発展に繋げていくという観点で、産学の連携強化や国際標準化・規格化の推進などに微力ながらも貢献してまいる所存です。
氏名	加藤 千幸
認定時の所属	東京大学
抱負	候補者の専門分野である機械工学を始めとした多くの工学分野において、必ずしも明確な将来展望が描けていない状況にある。工学がどのような発展をすべきなのか、どこに向かうべきなのか、どのようなマイルストーンを設定すればいいのか、などに関して議論し、工学の将来ビジョンを明確に描いていくことに微力ながら貢献していきたい。
氏名	佐々木 正信
認定時の所属	東京電力エナジーパートナー株式会社
抱負	エネルギー分野が抱える、安全性向上、エネルギーセキュリティ向上、経済効率性向上、環境適合を同時達成するという課題は大きな課題であり、長期間の継続的な努力と産官学の連携、グローバルでの連携が必要とされてきました。日本工学会の活動は日本としての大きな課題や長期的な課題に対し、大学と産業界が連携して解決策を見いだす重要な活動であり、今までの経験を活かしつつ、企業側の立場として様々な日本工学会活動（約100にも達する国内学協会が連携し、将来の工学の発展に向けて、多様な技術者・研究者が連携して成果を出すことができる活動）に貢献していきたいと考えています。
氏名	佐藤 愼司
認定時の所属	高知工科大学
抱負	私は海岸工学、沿岸防災学を中心として、土木学会、海洋政策学会などで、持続的な海岸保全を実現するための諸活動に取り組んできました。これらの活動には、津波や高潮の機構解明とその対策、気候変動を踏まえた海岸保全の考究などが含まれ、多くの場面において、科学的学術と実務的技術のコーディネートが重要となるものでした。そもそもサイエンスとテクノロジーは、豊かで持続的な社会を実現するための両輪となるものですが、研究・教育においては実務的技術より科学的探求が尊重される傾向があり、研究の社会実装やアウトカム評価を充実させるためには、今後さらに両者の有機的な融合を進める必要があります。日本工学会において活動の機会を与えられましたら、持続的な海岸保全を実現するための活動を通じて培った多くの学際的経験を活かして、日本の工学研究の更なる発展に微力ながら尽力してまいります。

氏名	萩谷 昌己
認定時の所属	東京大学
抱負	情報教育は工学教育の一部と捉えることもできるが、情報学が文理に広がっているように、情報教育も工学教育に納まり切らずに文理に広がっている。一方、情報技術の工学的側面は情報教育の根幹を成しており、情報教育も工学教育の文脈で捉える必要がある。このように、情報教育と工学教育は一体的に考えていかなければならない。初等中等教育においても、中学校の技術科の教育が工学教育の中核にあり、技術科の中で情報教育が行われている。しかしながら、プログラミング教育が小学校で始まったように、情報教育は初等中等教育全体に広がりつつある。高等学校の情報科も大学入試に取り入れられ始めている。それに対して、工学教育は高等学校においては専門科目以外では陽に行われていない。とすると、IoT、ロボット、自動運転など、情報技術の拡大とともに情報教育も拡大して工学教育を取り込んでいく、という方向も考えられる。いずれにせよ、いままさに、今後の情報教育と工学教育の在り方に関して検討し実践的な活動を行っていくべきときである。
氏名	長谷川 浩巳
認定時の所属	電力中央研究所
抱負	数十年に及ぶ研究、業務、学協会活動等を通じて得られた知見、経験、気付き、人的ネットワーク等を、今後の様々な活動に活かしていきたいと思います。